

【目指すべきまちの将来像の考え方】

都市づくりの基本理念の設定

本市の大きなまちづくりの考え方として、社会経済情勢や本市の取り巻く状況等を踏まえ、都市づくりの基本理念を設定します。

将来都市像の設定

基本理念を市民の皆様に理解されやすい一言で将来の都市像として示すために、キーワードを基にキャッチフレーズで示します。

都市づくりの目標の設定

将来都市像の実現に向けて、都市づくりの課題を解決するための具体的な都市づくりの目標を、いくつかの類型に分けて設定します。

都市づくりの目標に向けた施策展開の方針

都市づくりの目標ごとに、どのような施策を展開していくのかを示します。

将来都市像を実現するための都市の拠点・軸・ゾーンの設定

都市づくりの目標に対して、拠点・軸・ゾーンを設定し、将来の都市構造の概念を整理します。

将来都市構造図の作成

拠点・軸・ゾーンを地図上に反映し、将来都市構造図として示します。

3-1 都市づくりの基本理念の設定

本市は、平成18年1月1日に、宇陀郡の旧大宇陀町、旧菟田野町、旧榛原町、旧室生村の4町村の合併により誕生しました。この地域は、大和高原の中で豊かな自然に恵まれており、古くは「古事記」「日本書紀」「万葉集」等にも記載が見られるなど、古代王朝との関わりをうかがうことができる歴史的な側面も有しています。

合併により市域は広くなりましたが、人口減少・少子高齢社会への対応や、今後の宇陀市全体としての活性化に向け、それぞれの地域間の連携や交流を進めていく必要があります。一方、近年頻発する想定外の自然災害に対しては、市民の皆様の生命や財産を守るため、安全・安心の確保が強く求められていることから、誰もが安全・安心に暮らすことのできるまちづくりを進めていく必要があります。

以上のことから、本市の都市づくりは、四季の風薫る豊かな自然や歴史文化資源の保全・活用に努め、活力ある産業の振興や都市機能の集積による拠点の形成、良好な居住環境の創出を目指した、誰もが元気で安全・安心に生活でき、心豊かな暮らしを実現できる持続可能な健幸都市づくりを基本理念として進めることとします。

3-2 将来都市像と都市づくりの目標の設定

(1) 将来都市像の設定

本計画の上位計画として位置付けられる宇陀市総合計画では、将来像を「～協働と交流で築く ぬくもりの家～ 『自然と共生し、歴史・文化が育む ふれあいと活力あるまち 宇陀市』」として、4つの基本理念からまちづくりを進めています。また、奈良県都市計画区域マスタープランでは、「歴史・自然あふれる元気で安全・安心な『まほろば』の創出」として、5つの観点から都市計画区域全体の将来像を設定しています。

市民の意向としては、本市が有する財産である自然や歴史等の恵みを大切にしながら、今後の人口減少・少子高齢社会への対応や生活基盤整備、地域経済の活性化、さらには自然災害に強いまちづくりなどが求められています。

本計画の将来都市像は、これらの上位計画の将来像と同じ方向を見据えながら、本市の特性や社会経済情勢の変化にも対応した都市づくりの基本理念に基づき、誰もが誇りと愛着を持った都市づくりの目標となるように設定します。

【上位・関連計画の将来像等】

■新市まちづくり計画（※1） （将来像） 水と緑・歴史と文化が共生する ふれあい豊かなまち ～みんなでつくる 夢ある宇陀～ （基本理念） 1. 豊かな自然や歴史文化を最大限に活かすまち 2. すべての人が安心して住み続けられるまち 3. 交流さかんな躍動感あふれるまち	■宇陀市総合計画 （将来像） ～協働と交流で築く ぬくもりの家～ 『自然と共生し、歴史・文化が育む ふれあいと活力あるまち宇陀市』 （基本理念） 1. 持続可能な環境保全のまちづくり 2. 新しい時代の協働のまちづくり 3. 地域力（宇陀力）による「安全・安心」なまちづくり 4. 歴史や文化を活かしたまちづくり
■奈良県都市計画区域マスタープラン （都市づくりの基本方向） 奈良の未来を創る～ 「歴史・自然あふれる元気で安全・安心な『まほろば』の創出」 （都市計画区域全体の将来像） 1. 県土の都市活動の中心となる2大拠点（奈良、橿原）と個性豊かな主要生活拠点の形成 2. 拠点間の交流や産業活動を支える連携軸（ネットワーク）の形成 3. 観光交流拠点の形成 4. 観光交流拠点をつなぐ奈良らしい観光交流軸の形成 5. 地域の自立を図り、くらしやすい奈良を創るための機能の集積等	
■宇陀市まちづくりの基本方針（※2） 高原の文化都市、四季の風薫る“宇陀市”	■健幸都市ウェルネスシティ宇陀市 市民の誰もが健康で幸せと思えるまち

本市の特性・社会経済情勢

宇陀市の都市づくりの基本理念

四季の風薫る豊かな自然や歴史文化資源の保全・活用に努め、活力ある産業の振興や都市機能の集積による拠点の形成、良好な居住環境の創出を目指した、誰もが元気で安全・安心に生活でき、心豊かな暮らしを実現できる持続可能な健幸都市づくりを進めます。

基本理念から設定する宇陀市の将来都市像

宇陀市の将来都市像のキーワード

【四季の風薫る自然・歴史・文化・活力・元気・健幸・安全、安心・ふれあい・賑わい・地域力（宇陀力）・持続可能・観光交流・各拠点の魅力創出】

（※1）新市まちづくり計画：合併前に法定協議会が、旧町村の課題等を踏まえながら、合併後の新市が一体的なまちづくりを速やかに確立するために策定。（※2）宇陀市まちづくりの基本方針：今後、宇陀市が取り組んでいく地域拠点の形成に向けてのスローガン。

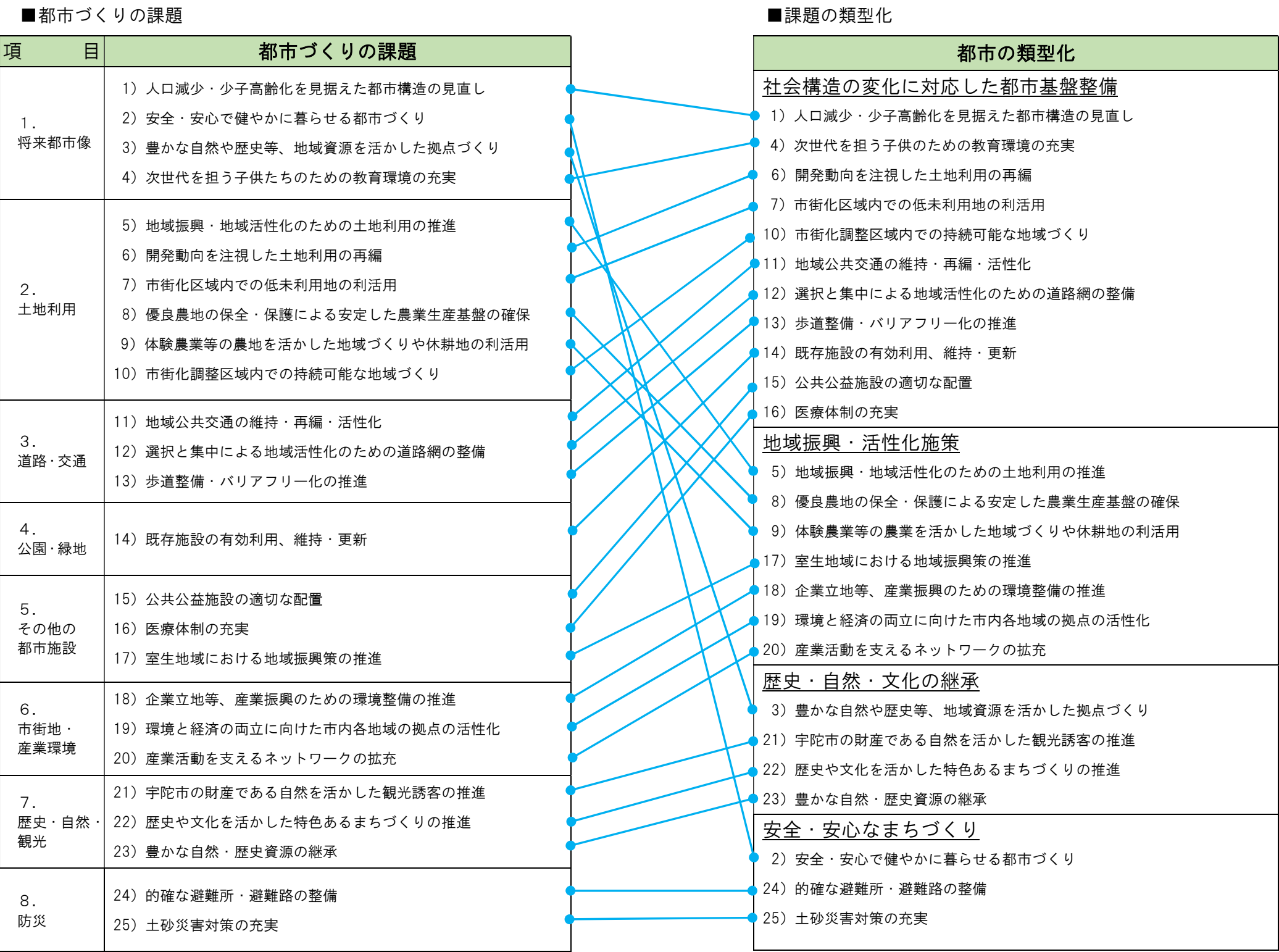
『四季の風薫る
健幸で魅力あるまちづくりを目指して』

※宇陀市まち・ひと・しごと創生総合戦略における将来都市像と同様

(2) 都市づくりの目標の設定

将来都市像の実現に向けて、これまでに見てきた課題を解決するための具体的な都市づくりの目標の設定を行います。

都市づくりの基本理念は、宇陀市の将来に向けた都市づくりの基本的な考え方となりますが、都市づくりの目標は、基本理念の考え方を踏まえた上で、宇陀市の将来都市像の実現に向け、市民の皆様が共感し、協働のまちづくりを進めていくために定めます。



都市づくりの目標

拠点
連携

地域拠点が連携した
持続可能な集約型の都市づくり

活力
振興

地域活性化のための
産業基盤整備を目指す都市づくり

潤い
癒し

豊かな自然環境の保全と
歴史・文化をつなぐ都市づくり

安全
安心

災害に強い
安全・安心な都市づくり

3-3 将来フレームの設定

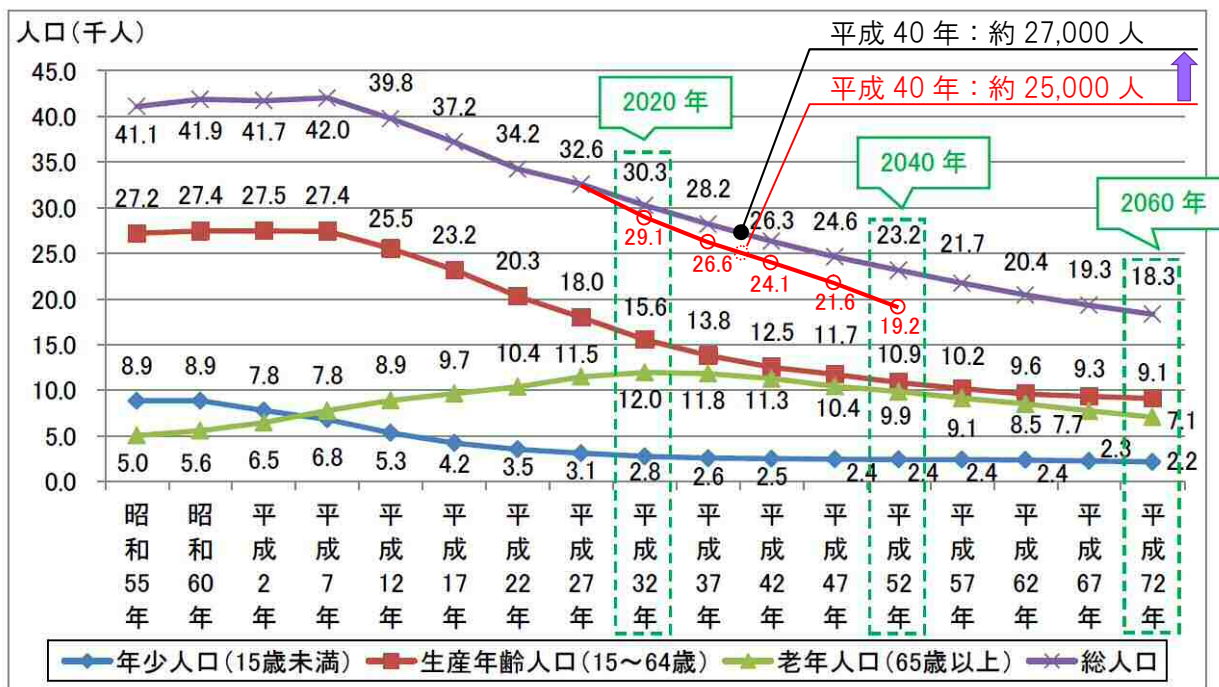
都市計画マスタープランにおける将来フレームは、宇陀市人口ビジョンとの整合を図り、以下のよう

に設定します。

将来フレーム

目標人口：27,000 人（目標年次を平成 40 年とする。）

（参考）宇陀市人口ビジョン



資料：昭和 55 年～平成 22 年：国勢調査、平成 27 年以降：パターン 3C による推計値

—— 何も施策を実施しなかった場合の宇陀市将来推計人口

図 年齢 3 区分別人口の推移（宇陀市人口ビジョンを基に作成）

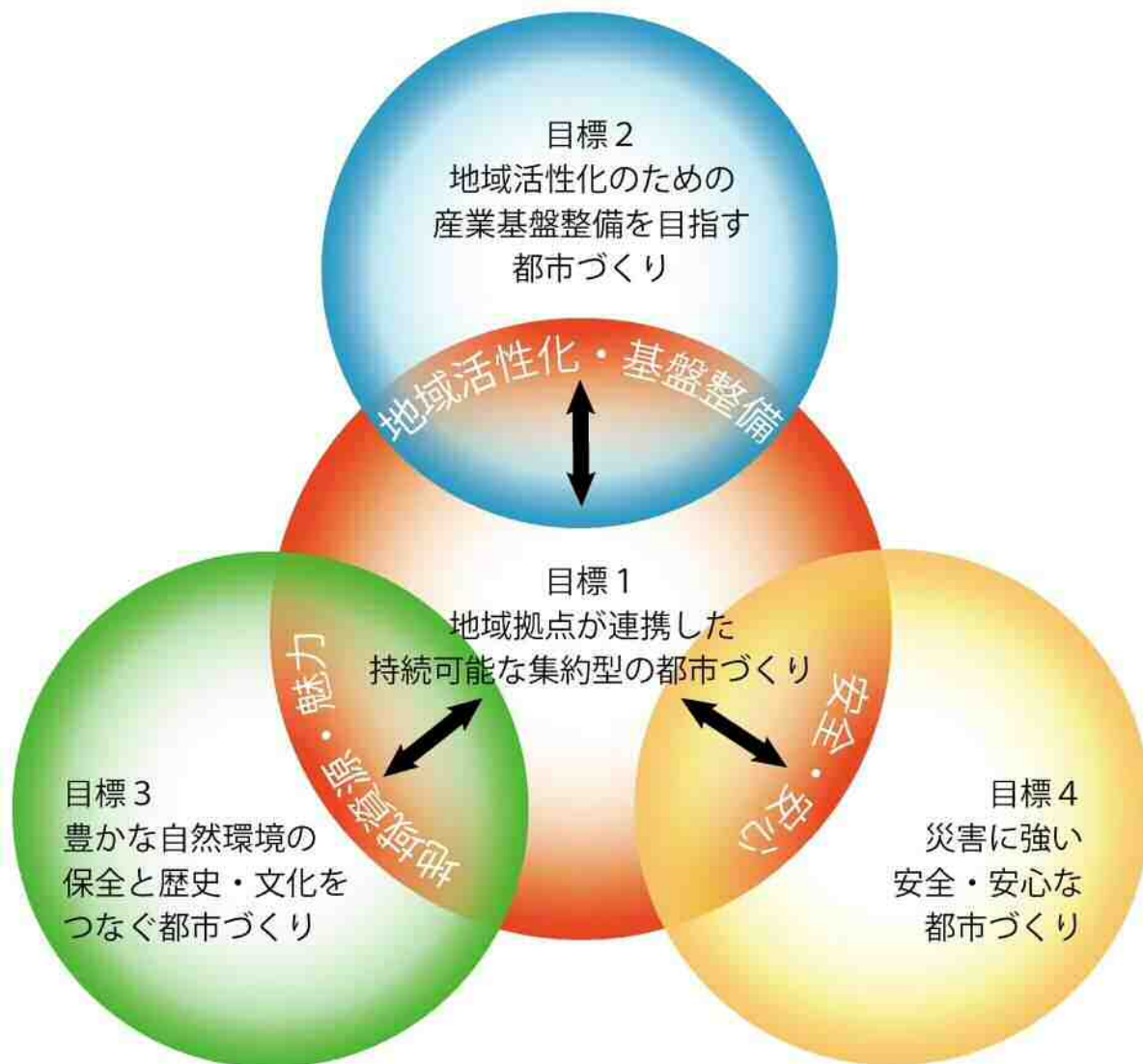
宇陀市の将来推計人口は、何も施策を実施しなかった場合、目標年次の平成 40 年には約 25,000 人となることが予測されています。宇陀市人口ビジョンでは以下に示す将来の方向性の達成に向けて施策を展開し、都市計画マスタープランでは目標人口の約 27,000 人に応じた都市の形成を図ることを目指します。

【宇陀市人口ビジョンによる目指すべき将来の方向性】

- ・ 子供を持つための課題を解決するには期間を要するため、早々に結婚、出産子育て環境の改善を図る。
- ・ 社会増減は人口増減への影響が短期的にも効果があるため、転出者の「宇陀市に戻りたい」意向、転入者の「宇陀市に永住したい」意向に対する対応を早々に図るとともに、生産年齢人口の世代の転出減少、転入増加のための施策を講じる。

3-4 都市づくりの目標に向けた施策展開の方針

将来都市像を実現するための都市づくりの目標



将来都市像を実現するために掲げた都市づくりの目標を達成するために、以下の施策を進めていきます。

都市づくりの目標 1	地域拠点が連携した持続可能な集約型の都市づくり
今後の都市づくりは、人口減少・少子高齢社会への対応を図りながら、生活の安心や快適、自然環境の保全や有効な活用方策を進めていく必要があります。また、定住人口の増加を目指すためには、多様化する市民ニーズにも対応した、日常生活を快適に暮らすことのできる生活環境の整備が求められています。一方で、環境負荷低減・低炭素に配慮した都市づくりが必要となっており、都市経営コスト（都市施設の維持管理や福祉施設等の行政コスト）の増大も懸念されているほか、低密度な市街地が拡散する都市構造から、集約型都市構造への転換が求められています。 【施策】 これからも本市の魅力を損なうことなく、持続可能な都市づくりを進めていくために、本市の各地域が有する資源を活かした地域拠点の構築を進めるとともに、各拠点間を連携する交通ネットワークの整備を進め、本市の地域特性を活かした効率的な集約型の都市づくりを目指します。また、快適な生活環境の質的向上・充足を図り、移動の円滑さの確保や、身近な生活圏で暮らしを支える買い物や行政・福祉・医療サービス等の利便性の向上等、生活環境の確保を目指すとともに、公共公益施設等の適正な統廃合や再配置、バリアフリー化を図ることにより、誰もが快適に暮らせる優しい都市づくりを目指します。	
都市づくりの目標 2	地域活性化のための産業基盤整備を目指す都市づくり
地域の活性化には、産業の振興が不可欠であり、定住促進にもつながるものとなります。そのためには、既存企業の産業基盤を強化するとともに、新たな企業の誘致を進めていくことが重要です。また、農業では、宇陀川・芳野川流域の農業生産性の高い区域等について、優良農地の保全が求められています。 【施策】 地域の活性化や定住促進を進めるために、新たな企業の誘致や地場産業を育成することで、多様な業種が支えるバランスの取れた地域経済の形成を図るとともに、古来より薬草にゆかりがある本市の特性を活かした、薬草の6次産業の展開のための基盤整備を進めます。また、優良農地の保全・保護による安定した農業生産基盤の確保を目指すとともに、休耕地の利活用を含めた農業を活かした都市づくりを目指します。	
都市づくりの目標 3	豊かな自然環境の保全と歴史・文化をつなぐ都市づくり
本市は、河川、山林、高原等の豊かな自然に恵まれ、古来より伝承されてきた貴重な地域の歴史や文化があります。これらの大切な自然環境や歴史・文化資源を積極的に活用し、魅力あふれる観光振興を進めていくことは重要ですが、同時に後世に受け継いでいく義務もあります。 【施策】 本市の財産とも言える豊かな自然環境の保全と、歴史・文化的資源を活かした都市景観の形成を進めるとともに、本市の魅力を求めて国内外から観光客が訪れる、観光振興基盤整備に向けた都市づくりを目指します。	
都市づくりの目標 4	災害に強い安全・安心な都市づくり
近年頻発している異常気象に起因した自然災害の発生や、南海トラフ巨大地震の発生が危惧されている中で、市民の安全・安心を確保することが非常に重要となっています。 【施策】 大規模な自然災害等に対して、戦略的に土地利用の規制・誘導を行い、水や緑の空間を確保し、道路や公園等の基盤整備を進めることで、すべての市民が安全・安心に暮らすことのできる、災害に強い都市づくりを目指します。また、少子高齢化が進む中で、防災面や防犯面での安全・安心の確保も重要になりますが、この解決には行政だけではなく、市民の連携が必要不可欠となります。宇陀力を発揮した地域コミュニティの強化を図り、まちづくり協議会等による取り組みを推進するなど、市民の参画による都市づくりを目指します。	